

ゴルフ練習場を利用してもコースには行かない若者の調査

—本学ゴルフ授業履修者を対象として—

Investigation of the young man who does not go to a course even if it uses a driving range.

-For WASEDA University Golf class completion person-

1K09B035

太田 孝

指導教員 主査 木村和彦 先生

副査 松岡宏高 先生

【序論】

ゴルフは現在、大人のスポーツや接待などのイメージが強く、若者のゴルフ離れが進んでいる。ゴルフは社会人としてのたしなみの一つであり、また、身体への負担も少なく生涯スポーツのひとつでもある。経済産業省¹⁾によると近年、日本のゴルフ競技人口は1,000万人にも達する普及率の高いスポーツである。山崎(2012)⁴⁾の「ゴルフ産業 2015 年問題と20代30代のゴルフ意識調査報告」によると、ゴルファーの約50%は20代30代で誕生すると述べている。これは、ゴルフを現在行っている人の調査であるが、ゴルフを始めようしている人やまだ始めていない人は何を考えているのか、また身の回りで練習場を利用したことがあっても、コースには行ったことがないという若者が多いと感じていた。その理由を解明できれば、コース利用者数が増加し、ゴルフ市場の発展・拡大に繋がる。少なからず練習場を利用したことがある者には、ゴルフへの興味・潜在意識があると仮定した。また山崎(2012)⁴⁾によると、20.30代は会社関係でゴルフを始める人が多いので、焦点を当てる年齢を、その前の世代の大学生に当てるとはどうかと考え、本研究では、練習場を利用したことがあっても、コースに行っていない若者の調査を行うこととする。

【目的】

ゴルフ練習場を利用しても、ゴルフ場コースには行かない若者を対象として、その阻害要因を明らかにする。そしてゴルフ練習場しか利用しない若者がコースデビューできるような方策を考察・提案をする。

【方法】

2012年11月15日(木)、本学オープン科目ゴルフ授業履修者に対して、その場で質問紙調査を実施した。18歳以上で練習場を利用したことがあるが、コースに行っていない者を対象とする。具体的な配布・回収方法は、授業時に調査員が対象者に直接、質問紙を配布し、その場で記入が終わり次第、回収を行った。配布数、回収数ともに78であり、そのうち有効回収数75、有効回収率は96.1%であった。尚、本研究では、練習場を利用したことがあるが、コースに行っていない者のみを対象としているため、57サンプルを分析の対象とした。ゴルフ場コースに行くことへの阻害要因となり得る項目を提示し、その項目に「強く当てはまる」から「全

く当てはまらない」(リッカート・5段階尺度)を設け、回答を求めた。統計的分析にはSPSS17.0を用いた。

【結果】

本大学オープン科目ゴルフの授業履修生に対してサンプリングを行ったので、ゴルフ練習場を1回も利用したことがないと回答した者はいなかった。続いて、「ゴルフ場コースでプレーしてみたいと思うか。」という質問の回答結果は、「強く当てはまる」と回答したのが26人、「やや当てはまる」と回答したのが20人と、ゴルフ場コースでプレーをしてみたいということに肯定的な回答が、全体の約80%にも及んだ。ゴルフ場コースに行くことへの阻害要因に関して最も平均値が大きかったのが、「技量不足」であり、「情報不足」、「コスト」、「道具」、「距離」と続いた。「同伴者不足」、「時間」の平均値は、3未満となり、「興味・関心」の平均値は、2未満と低かった。

【考察】

最も平均値が大きかった阻害要因は、「技量不足」であった。まずは、ある程度ボールを前に飛ばせるようにならないと、競技が進まないというゴルフの競技性が窺える。次いで平均値が大きかった阻害要因は、「情報不足」であった。ルール・マナー・ゴルフ場コースの利用方法がわからない。ということで、若者の場合だと、周囲にゴルフ経験者、またはゴルフについて詳しい人間が少ないということも言える。阻害要因「道具」に関しては、クラブを一通り揃えるには、金銭的「コスト」が懸念される。しかし、中古用品で揃える、または、親がゴルフ経験者であれば、お下がりのクラブを使用したりと、ある程度、道具に対する金銭的「コスト」は軽減できそうだ。阻害要因「距離」に関しては、ゴルフは他のスポーツと違い広大な土地を必要とするので、どうしても都心から離れた場所にゴルフ場が多くなり、また都心付近にあるゴルフ場は、好アクセスという条件から、それだけでプレー費が相場より高くなっている。阻害要因「同伴者不足」、「時間」はどちらも平均値が3未満となり、学生はある程度、時間に余裕があり、身の回りにゴルフを一緒にしてくれるような仲間が存在するのか、この2つはコースに行くうえであまり障害にならないと言える。阻害要因「興味・関心」については、平均値が最も小さく、質問4の回答で、ゴルフ場コースでプレーしてみたいと回答した者が約8割いることから、今後ゴルフ場コースに行きたいと思っていて、ゴルフに対する興味・関心も十分に持っていると言える。